

令和5年度(2023年度) 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書  
【小名浜白百合幼稚園】

当幼稚園における令和5年度事業内容につきまして、下記のとおり報告いたします。

1. 項目別

項目	計画(=Plan)	実行(=Do)／ 評価(=Check)	改善(=Action)
目的 (園則より)	<p>この幼稚園は学校教育法第22条及び23条に従って幼児を保育しキリスト教に基づき、幼児に適当な生活環境を与え、心身の正しい発達を助長すると共に、道徳的心情、将来の善良なる社会人の健康と特性との基礎を作り家庭教育を補うことを保育の目的とする。</p> <p>なお、コロナ関連については、新型コロナウイルスに対する国の取り扱い及び自治体の指導に基づき、園児、保護者、職員の安心安全を確保すべく、引き続き対策に努める。</p>	<p>本園は子どもとの生活の中で「感動する心、感謝する心、祈る心、共に生きる力」を育てる心の教育を目標とし、園児一人ひとりが安心できる居場所となるよう、寄り添い認める保育をし、更に生活習慣を身につけさせると共に集団での遊びが充実する保育を行った。</p> <p>教育目標である心の教育を達成するため、職員間での共通理解を深める努力をした。</p> <p>また新型コロナウイルスの取り扱いが変わる中でも、園児一人ひとりが心身ともに健やかに成長するために、感染防止策として下記の通り実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的習慣(検温、手指消毒、マスクの適切な着脱、備品・玩具等の消毒作業)を継続し、安全安心を重視して園児の健康管理に努めた</li> <li>●感染した場合の対処等について共通理解を重ね、職員間の連携を意識し、職員室に情報を集約した</li> <li>●園児の日々の生活、遊び、行事等の見直しを繰り返し行い、職員の知恵と工夫により、安心安全の中で仲間と充実した園生活を過ごせるよう努めた</li> </ul>	<p>令和6年度についても、同様の方針で教育目標に沿って保育を進めて行く。</p>

年間行事 について	<p>積み重ねと継続を大切にし、各種行事を挙 行する。</p> <p>予定の詳細については、各幼稚園の年間 行事予定表を作成及び公表する。</p>	<p>別紙、年間行事予定表に沿って行事を行い、保護 者からも子どもたちの成長に対し評価をいただいた。</p> <p>新型コロナウイルスが5類になったことを受け、リモ ート保育参観を廃止したり、従来のようにクリスマスおゆう ぎ会リハーサルを有観客(祖父母)にする等、徐々に 来園者の受け入れを再開した。</p> <p>一方で、コロナ禍によって行事の保護者手伝いの在 り方を見直してきた経緯もあり、引き続き保護者手伝い を極力縮小しながらも、職員の手で一つひとつ行事を 作りあげていくことを怠らなかった。</p> <p>また、保護者の声を反映して、立哨当番の廃止及び 預かり保育実施日の増設を行い、日常保育の中でも 保護者の就労支援につながるよう変革を意識すること が出来た。</p>	<p>日々の保護者対応で、母親の就労率 の高さを実感している。保護者の来園に ついては参観や観覧を主とし、行事は 極力職員のみで実施していくよう今後も 継続する。</p> <p>職員間の連携「報連相」が、行事だけ でなく日常保育の現場レベルにおいて も重要であることを職員一人ひとりが理 解し、実感できるよう、職員教育にも力を 入れたい。</p>
新規事業 について	① ノートパソコン追加導入	各クラスに1台配備となるよう追加導入した。周・月案 や出席簿など、園内事務のICT化をスムーズに進める ことが出来た。日々パソコンに触れることで、個々のス キルアップにも繋がった。	今後も機器を大切に使い維持し、作業 効率化に努めたい。
新規事業 について	② 園バス園児置き去り防止安全装置の設置	提携の整備工場にて設置した。仕組みについても講 習を受け、理解して活用することが出来た。	今後も、置き去り事案を起こすことの無 いよう、装置を過信することなく運行して いきたい。

③ 教育鑑賞会の実施	子育て支援事業の一環として、「ゆかいなコンサート」を実施した。園児、エンジェルクラブ会員が参加し、童謡やマジックを鑑賞し、歌う・踊る・驚く・思考する等、情操を深める鑑賞会となった。	今後も、補助金事業等を活用して園児の情操教育に力を入れたい。
④ 園庭遊具修繕工事の実施	経年劣化により、FRP製滑り台に穴が開きかけたことから、補修・再塗装を実施した。	今後も事故・怪我防止のため、環境整備に努めたい。
⑤ 門扉等改修工事	ドライブスルーゲートについて、経年劣化によりフレームが破損したため交換工事を行った。また南口通用門についても、劣化により施錠してもロックが外れてしまうことが懸念されたため改修工事を行った。	園児の安心安全及び防犯の観点からも、引き続き設備の日常点検を怠らず事故防止に努めたい。
⑥ ネットワークセキュリティ強化装置の導入	日々の事務作業等でもインターネット利用頻度が高まったことから、セキュリティ装置をアップグレードした。	今後も柔軟に ICT を活用し、より良い労働環境の提供に努めたい。
⑦ 避難カート購入	災害等の際、より安全に避難が図れるよう避難カートを追加購入した。2歳児、障害等をもつ園児を安全に避難させることが出来、ひいては職員の安全も担保できる材料となった。	日頃の避難訓練の際にも利用し、災害に強い施設となるべく努めたい。

<p>職員の 質向上に ついて (研修等への 参加含)</p>	<p>園内外の研修に参加し、保育の質の向上に力を注ぐ。 聖書からの心の糧を養う研修に参加する。 特別支援を要する幼児の保育向上にも力を注ぐ。 小動物や植物、野菜など自然とのふれあい事業を通し、命の大切さ、小動物との関わり方などを学ぶ。 避難訓練、防災訓練、交通安全教室を通し、危機管理に係る知識を深める。</p>	<p>研修を通して職員間の共通理解を深め、保育の質の向上を図ることが出来た。  本年度は新採用や経験の浅い職員・支援員が複数いる体制となったが、彼らが研修を通して園の目指すものを知り、日々の保育や行事に奮闘しながら園児たちに真摯に向き合い努力を重ねてくれたことで、園児とともに保育者として成長していく姿が見られ、一年間を無事に終えることが出来た。  職員全体としては、チームワークに直結する「報連相」の部分を理解すること、縦の流れや横の繋がりなど組織としてあるべき姿を想像することについて、より一層考えを深める必要がある。</p>	<p>令和6年度も新採用を迎え、引き続き経験の浅い職員が多くいる体制での教育提供となる。 職員一人ひとりが、自分が出来ること、すべきことを考え自覚して自己研鑽できるように、研修の機会を積極的に設けたい。</p>
---	--	---	---

## 2. 総括

- 職員が「何を大切にするか」を考え、思い、共通理解し実践している。保護者は園と職員を信頼してくださり、理解、協力してくださっている。この信頼関係があつてこそ、園運営、保育・行事に関すること、全てが予定通り行えた要因だと思う。
- 発達障がい児や気になる部分がある園児を受入れ、保護者と連携を取りながら個々に寄り添った保育を実行してきた。一部の療育施設との連携も取れ、当該園児の特性や寄り添い方等について共通認識を深めることも出来た。  
健常児についても同様に、心身の定型発達以上に、違いを理解しようしたり、認め合い、助け合おうとしたりする姿が見られ、カトリック幼稚園としての教育目標「感動する心」「感謝する心」「祈る心」「共に生きる力」が芽生え育ってきていることを実感し、手を合わせ感謝した。
- コロナ関連について、国の新型コロナウイルスに対する取扱いが改訂され、様々な場面で規制が緩和されたが、引き続き慎重に感染対策を行い、園児の安心安全に努めることが出来た。一部の保護者からは、国のガイドラインに比べ本園の出停基準が厳しいのではないかと意見があつたが、園の見解を丁寧に説明することで理解を得ることが出来た。今後も、保護者から意見や問合せがあつた際には、細やかな説明を怠らず信頼関係を構築していきたい。
- 園バスの園児置き去り防止装置設置が義務化され、4台の園バスに実施した。大きく報道された園児置き去り死亡事故は記憶に新しく、また全国的に不適切保育の事案を取り沙汰され、保育業界全体に対して保護者からの視線はより厳しいものとなった。本園でも、設備や備品等においては経年劣化したものを適切に修繕しているが、最も重要視すべきは保育者・職員の当事者意識の在り方であると考え、職員教育に力を入れたい。
- 事務作業の効率化を進めるべく各クラスへのパソコン配備を実施したことで、残業時間の軽減に大きく貢献した。今後は、さらに個々のスキルアップを目指し、適切に ICT を取り入れて、更なる労働環境改善に積極的に尽力したい。
- 事務局により、補助金手続や、感染症等に係る就労体制の構築・整備、及び園が抱える諸問題等を解決していただいていることにより、混乱なく園運営を行うことが出来た。
- いわき市の人口統計によると令和3年の市内の出生児数は初めて 2000 人を下回った。少子化が止まらない社会情勢の中、コロナ禍で子育てをする保護者同士の交流の場も減り、わからないことは身近な大人に相談するのではなくインターネットで調べる、といった保護者の姿も多く見受けられる中、保護者支援の必要性を強く感じる。子どもの数が減り続け保育施設が淘汰されていくであろう今後、「選ばれる幼稚園」であるためには、保護者支援は大きな要素になる。これまで以上に情報発信を行い、保護者のニーズに応えながら本園の教育理念を丁寧に伝えていく努力をしなければならないと考える。今年度行った保護者アンケートでは、行事の実施時期や保護者参加の在り方、保護者の目から見た職員の労働環境など、改めて検討すべき材料があつた。今後も、客観的な視点を失わず、保護者や地域の皆様の心からの信頼を得られるよう努力したい。